

特定非営利活動法人

とことこ39号

挨拶

とことこ理事長 中山 君江

皆様、猛烈に暑い日が続いておりますが、お元気ですか？

とことこ理事長の中山君江。

今年の梅雨めけは、例年より早かったですね。空梅雨と言われる
 いましたが、降るときは、警報がでるほどの大雨。このころの
 天気は、変わってきました。でも庭で咲いている紫陽花や、少
 の野菜たちは、ホースで水をやるより、天からの雨の方が生き生
 きしてこののです。恵みの雨とはよくいっていいものです。涼しくも
 なりますので適当にうつつ
 降してほしいです。

そして、監督の神古さんをお
 迎えて、生きたいごうの映画
 を見せていただきました。



たかほし のいあき

重度の車いす障害者の人が
 旅行するのがどれだけ大変か、
 そしてそれを乗り越えて達成

されたときの感動はあまりに大きすぎる障害者に勇気を与えたこと
 と思います。

シヨブだったのは、映像の中で元気でおられたお父様が、この
 五月二十一日に亡くなったこと。

天ぶらを揚げて池田さんに食事介助されていたお父様。
 初めは旅行を止めようと言われていたけど、旅行の途中からだ
 んだんとうれしそうになつていかれたお父様。

お田にかかっていたことはないので、知り合いのような気になつて
 いました。池田さん、本当に北海道に行けてよかったですね。心
 からお父様のご冥福をお祈りいたします。

改めましてとことこちゃん映画教室へのご協力本当にありがとうございます。
 ございました。

〜追伸〜

七月十六日に信じられない訃報が届きました。生まれいづ
 の主人公の池田英樹さんが亡くなりました。この間、
 お父様が亡くなられてから、まだ一ヶ月もたつていません。

残されたお母様のお心を思うとお慰めの言葉もつかびませ
 ん。逝くにははやいですが、悔いもなかりませんでした。
 障害者の方に指導してほしかったです。映画で一度しかお眼にか
 かっておりませんが、生き生きと講演されたお姿は忘れられま
 せん。私達に映画を通じて色々教えていただき、ありがとうございました。
 いました。池田さんのご冥福を心よりお祈りいたします。

「いぢちゃん映画教室」

北海道旅行』

池田 英樹

いよいよ、旅行する為の準備が全部出来て後は行くだけになりました。一ヶ月は切っていたので毎日が待ちごうごうしてソワソワしていました。実は少し不安があつて・・・

今まで旅行の一週間前に、親の都合や自分の体調が悪くなったりして、キャンセルするものが何回もあり、今回は無事に行けるか？どうかと不安になりました。そんな不安や楽しみを考えながら過ごしているうちに、旅行前日になり やつと旅行に行ける。この瞬間が沸きました。

旅行当日は、出発が夜中の十二時半の船だったので、準備などがゆっくり出来、晩の十時頃に迎えるの車に来て頂いて出発しました。船の中では、両親も長期北海道旅行というのは初めての事なので、大変盛り上がりつめました。

次の日の朝、朝食を食べて甲板に出ると空も快晴で海も鮮やかな色をしていすすいすいキレてました。しばらく甲板にいらついで、両親が出て来て、景色を観て喜んでいました。知らない人と両親が北海道旅行の話で盛り上がりつめているようでした。

その日の夜の八時に、小樽に着き介護タクシーでホテルに向かい、部屋に入り寝る準備をするのが大変で、電動ベッドがない

のでマットを一枚組み合わせて簡易式のベッドに作り変えました。ホテルの従業員と介助者の五人で車椅子からベッドへ移乗して頂き就寝しました。

一日目、朝から快晴で旅行日和です。

北海道の七月は日が昇るのが早く、朝は二時半頃から明るくなります。反対に日の入りは七時半位です。一日が長いので、結構あつちぢち観光をする事ができます。

この日は朝食後、北海道での送迎のドライバーとの顔合わせと、旅行日程の打ち合わせをする予定ですが、その時に自分の行きたい所等が時間等の調整で無理だと言われなにか心配していましたが、快く引き受けてもらい大変嬉しかったです。

その後、一緒に回つてくれる北海道のボランティアの看護師さんと顔合わせをし、いろいろ話をしました。全員揃って、初日は小樽観光からスタート。運河やガラス工芸館等を見て回り、昼食は両親と念願のエゾ馬ふんウニを食べる事ができました。両親も美味しいと大変喜んでくれました。値段も一杯三、四百円だったので、最初は高いとびっくりしましたが、味もよへおいへ大変満足しました。

午後からは札幌に移動し、駅にある札幌で一番高いといつたタワーに登り最上階からの眺望を楽しみました。その後はすすき野の大通り公園の時計台を観て回りました。

夕食は、ジンギスカンでビールと共に楽しみました。ちょっと

クセがあつたけど、美味しかったです。両親もすくすくおいしく喜んでくれました。

三日目、札幌羊が丘展望台に行き、クラーク博士の像と記念写真を撮ったり、たぐさんの羊の放し飼いをみたり、羊の乳の濃厚なソフトクリームを食べました。これは、普通のより、バター味が強かったです。

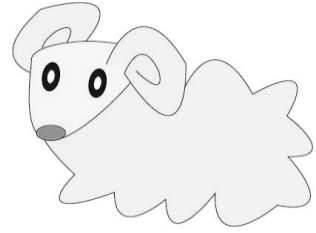
四日目は一日中曇りので、二〇度位しかならず、肌寒い日でした。

昼食は旭川まで行き、しょうゆラーメンを食べましたが、あっさりしておいしくいただきました。午後から富良野まで行き、見事に咲いたラベンダー畑をみました。この日、北の国からの撮影の跡も見学しました。両親がこのドラマのファンで、父親が田中邦衛のものまねをしたりしてとても楽しかったです。

四日目は、朝から晴れました。旭川のアイヌ「タンハ集落」の見学に行きました。いろいろなアイヌの作った楽器や民芸品等を見て回り、お土産に彫刻品などを購入しました。

次は、アイヌパビリオンに行きました。

日本一寒い部屋の体験ができるこの事です。マイナス四五度を経験しました。非常に寒く、鼻も凍る程です。外には、雪だるまの作り物が何十体もおかれていて、防寒服の私達と同じような恰好なので、隠れても同じようにみえ、みづからないようでした。



イラスト作 宮本恵子

た。昼から北見に移動して北キツネ牧場を観光しました。北キツネの子どもがとてもかわいかったです。夕食は網走で海鮮丼や、はなさきガニを食べました。新鮮でおいしかったです。

五日目は、天気が晴れで気温が二五六度だったので自分には、ちよつと良かったけど、地元の人には熱いと言われてました。

網走刑務所博物館に行きました。中はすくく広くて、東京ドーム二十個分の敷地があり、迷子になりそうです。昔の刑務所をそのまま復元していて、ロウ人形の囚人が入浴しているところや、作業をしているところを見てもわり、食堂で食事をしている人形の間に入り一緒に食事をとっていた。そうしたらまわりの方が、本物の囚人人形みたいだと言った。首を動かしたら首が動いたとビックリしていた。

刑務所をまわるのに四時間くらいかかったので、予定していた観光ルートがまわれるか心配になり、車のスピードを上げ速く行くようにしてもらいました。

昼からは、北見原生花園に行きました。そこに行くときは丘が広がっていて、その横にハマナスやスズランなどの花がさきみだれていた。百メートル先には、オホーツク海が広がっていて、すくく景色が良かったです。

次に、知床方面に行きオシロシロの滝を見に行き、直接山の上から海に流れ落ちる滝見て感動しました。

次に、知床横縦道路を通り知床連山や国後島を見て横断して

いたらエゾシカや北キツネの群に遭遇して大自然を満喫しました。

ホテルに向かう途中に、呼吸器のバッテリーが、すべて(カラ)にちかくなり、大さわざになりました。すぐ近くの呼吸器の会社に電話したり、バッテリーの充電を出来る場所を探しましたが、みつからず、バッテリーの残りが二時間位しかないので、運転手さんをお願いして、超特急でとばして、ホテルに行ってもらおうようにしたら、なんとか間にあつ事が出来ました。その後、今日おこしたトラブルの事で看護師さんとボランティアさんと、僕とで色々話しあひをして、それから、バッテリーや体調管理の問題など話しあひて解決しました。

六田目は、この日も天気良かったです。行きたかつた摩周湖に行きました。摩周湖は、一年の三分の二は霧に隠れていて、あまり湖を見る事ができないようですが、僕は三回見に行つて三回とも見れたので、地元の人に言わせると奇跡的な確率と言われました。

両親も見れて、喜んでいたんですが、後から、地元の人に三回もみたら、結婚ができないと言われ、ショックを受けましたが、半分あたりしているなと思ひました。(苦笑)

昼から、硫黄山や阿寒湖などを見てまわりました。

七日目、天気は今日も良くて、今日で最後かと思つたときみしくなるなと思ひました。

今日は、帯広と

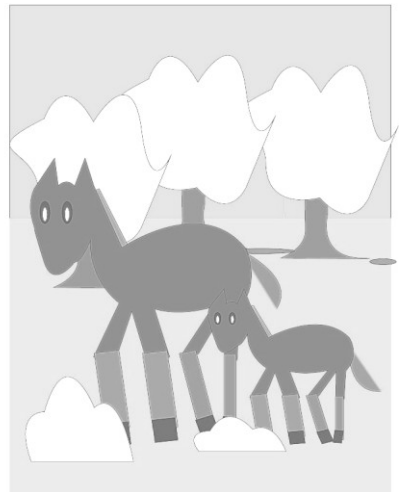
美瑛と富良野に行きラベンダーやエーデルワイスなどの花を見てまわり、最後夕方に小樽に行つて、ウー拜などの、豪華な食べ物を食べ満足しました。

フュー乗の場で北海道で、お世話になつた運転手さんや看護師さんに最後のあいさつをして別れました。無事に北海道旅行がまわられたのは、ボランティアさんや、看護師さん、運転手さんなどの助けがあつたからできたんだと思ひ、すこく感謝の気持ちでいっぱいになりました。

両親も北海道旅行に行けて良かったと言つてくれたので、今回の旅行は、成功したんだと思ひました。

— 追伸 —

旅の途中 六田目へらいに肺炎にかかり、熱が四十度ちかくなまで上がり途中で旅行を中止しようと思ひましたが、予防で持ってきていた、肺炎の薬があつたので、それを飲んでいたら、だいぶましになつてくれたので、あとは気力で治すことができました。



イラスト作 宮本恵子

『生きていく』

監督 神吉 良輔

先日は、『生きていく』の上映とお話をさせてくださいたく機会をいついつだね、ありがとうございます。

『生きていく』が完成して二年になりますが、今でもこの皆さんのように上映会を開いてくださる場所があることを嬉しく思います。

ただ一方で、障害をもつ人にとって生きづらい社会が様々な形であるのだと実感させられます。

僕は『生きていく』という作品を通じて、どんな状況にあっても、やりたいことを実現しようとすることの大切さや、人のつながりが生きていく力になることを伝えたいと思っています。

池田さんは、交通事故で首から下が動かない生活となりました。

「死にたい」気持ちで心が覆われたときもあつた池田さんですが、父や母が心を支え、同じ頸椎損傷の仲間ができたことで、それまで好きだったことをするにはどうすればできるのかを考え、自分なりに行動できるようになったそうです。

今回の映画では両親を連れて夏の北海道旅行へ行こうと前年の大きな目的となっています。

しかし、旅行の準備段階からさまざまな問題が発生しました。

飛行機会社からは、旅客が混雑する時季は利用しないでほしいと拒否され、普段から慣れ親しんだヘルパーを同行させることは「宿泊をとまなつ利用なので不可」と市役所から言われました。

さらには、この旅の大きな目的である、両親を北海道に連れて行きたいという池田さんの想いとは裏腹に、両親は「大変なので行きたくない」と、まったく乗り気ではありませんでした。そんな状況にも池田さんは、交通手段を飛行機から船へ変更したり、ボランティアを探したり、根気強くひとつずつクリアしていき、両親を連れてなんとか北海道へ行きます。

しかし、旅先でもさまざまな問題はありました。

滝などの観光名所ではバリアが多くて楽しめなかったり、慣れないボランティアの人たちのかかわりで、呼吸器のバッテリー管理があやふやになり、大自然のご真ん中でバッテリーがなくなりそうになったり、ホテルでは疲労のせいで気を失いました。

しかし、そんな思いをしても、両親と巡った北海道旅行というのは、池田さんにとって至福のひと時でした。

どこまでも広がる地平線や、豊かな大自然に心が安らぎ、シロギスカンや海の幸などの北海道グルメを楽しみました。

そして何より、半ば強制的に連れて来られた池田さんのお父さんやお母さんが心から旅行を楽しんでいる様子に、池田さん

は幸せを感じていたのではないかと思います。

池田さんのすごいところは、こうした経験を同じような頸椎損傷の人に積極的に話に行かれるところです。

本人は、ただ楽しい話をしただけという感じなのですが、それまで外へ出ることに不安を感じていた人にとっては、とても大きな刺激になるようです。

実際に、池田さんとの交流がきっかけで、外泊にチャレンジする人がいました。

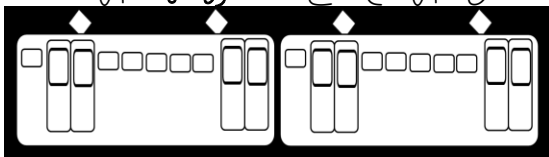
僕は「やりたいことをやってみる」ことが、人の生きる力につながるということを目の当たりにし、自分にとっても、すごく大きな影響を受けました。

制作した当初は池田さんと同じようにケガをして生きる望みをなくしかけている人に観てもらいたいと考えていましたが、今は、どうやって生きていったら良いか悩んでいる人に観てもらいたいと思います。

とにかく、自分が実現したいことをまずやってみる。そんなところから、何かがはじまると思います。

今後『生きろっへん』の上映を通じて、生きていく力がわいていくなような交流ができればいいと思います。

ありがとうございました。



図案構成 高木 駿

『生きろっへん』という映画を観て

アイエルセンター スタッフ 土井 克哉

映画は頸椎損傷を負って呼吸器を使って生活している障害者が、両親と北海道に一緒に行くというストーリーなんですが行き先は決まったのですが、交通手段や看護師やヘルパーの手配に困ったりしながら、本人の頑張りで克服するのです。

最初は、両親は行く気が無く「なんで行くねん」と本人に言っていたが、旅の終わる頃には、「連れて行ってくれて良かった」と言っていたのが良かったです。

交通手段も最初は飛行機で行く予定でしたが、飛行機会社から「七月は無理なので十一月にして欲しい」と言われ断念して、列車も無理でどうしようと思っていたら、「船なら行ける」と言われ、二十時間かけて旅行を二日延ばして行く事に決まったのはいいけれど、いつものヘルパーさんや、看護師さんは泊りになると市の制度で使えず、別のヘルパーや看護師さんを使わないといけないので、その人の日程も延ばさないといいけなくなり、また一苦労しないといけなくなりました。

健常者ならその日でも、すんなり行けるのに重度障害になればなるほど、一年掛かりで予定を立てているのに、交通機関の勝手で予定を変えさせられるのか訳が分かりませぬ。

途中で呼吸器の充電が切れるというハプニングが起きたのですが、旅先のハプニングは私でもよくある事です。その時に

大切なのは自己選択、自己決定です。

決めてない偶然に起きた事でも、最後にどうするか決めるのは自分です。

私の見た感想は、最初は自分に置き換えられて見られましたが、だんだん見にくくなってきました。それは、あまりにも自分に近すぎて見るのが辛くなってきたのが本音です。

映画としては良かったと思います。終わってからの話も分かりやすかったです。

関わりのある事で知らないといけない事ではあるのですが、障害者が題材になると、どうしても見る気無くくってしまう言いつか、気嫌いしてしまう自分がいるので、これからは出来るだけ見るようにして行きたいです。

映画の後に、ご本人と監督の話を聞いたのですが、アクシントが起きて、それが逆に面白くなったと言いつ事を言われ、障害者側に立って言いつきえたらいいのかと思いつました。



主演の池田さん

監督の神吉さん

映画「生きていく」を見ん

アイエルセンター スタッフ 香川 稔

僕は池田さんを見て事故にあつても諦めず、がんばっているなと思いつました。池田さんは一生懸命なので素晴らしい人だと思いつました。

電動車いすを運転できる僕はいろいろなことができると思いつ僕はパソコンを頑張りたつと思いつました。例えば、企画の仕事やチラシ作成をしてみたいです。

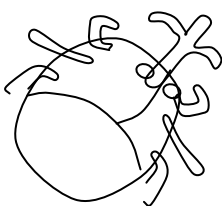
今まではフードしか使つたことなかつたけどテラセルもしてみたいです。

もつて自分で出かけるようになってみたいです。

映画は迫力があるのが好きなのでアクシント映画を見に行きたいです。車の運転もしてみたいです。そのために電動車椅子の運転をつまくなりたいです。

ハワイ旅行に行つたり AKB119に会つたり学校の友達にも会つてみたいですね。そのためにヘルパーさんと電車に乗れるようにがんばりたいです。

もつて世の目が便利になつてほしいです。いじわらうが楽しんでみたいです。



バリアフリー展 四月二八日
 インテックス大阪に行ってきました。

アイエルセンター スタッフ 宮本 登

見学したブース① 株式会社 ウエルファン

折りたたみ式電動カート スマートモビリー

速度は最大十六キロ。低速モードでは四キロ。重量 三五

連続運転で往復一五キロ。約二時間三〇分、

最大積載量百十五キロ。

飛行機も荷物室には

搭載可能但しJRはシ

ールの添付を義務付け

ています。

感想

折りたたみ式の電動カ

ートが出来た事は良い

事だと思ってもJRの

シールは疑問に思う。そ

れと介護保険だけが対

象になるのも疑問で

す。

ホームページより引用



見学したブース② Hooaa 日産

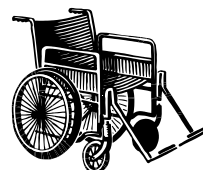
Hooaaのスロープの付いたワゴンに実際に乗せてもらいまし
 た。ベルトで引き上げるのですがスロープの角度が十三度とや
 や急でした。

本来車いすが越えられる理想的な角度は六度だそうです。

見学したブース③ I-MASEN

普通の手動の車いすを電動に改造できるようです。走行距離
 を最大二十一キロまで伸ばしたそうです。ほかにも近く専用の
 電動カートなどもありました。

どのメーカーも介護保険での適用をききしてい
 るようでした。



アイエルセンター スタッフ

武村 香奈

車のブースを見学して

車の上部に車椅子(手動)を収納できるフリースのある車があ
 った。フックで釣りあげられ自動で収納される。ただ、車椅子を下
 すスペースとスライドする上部の高さには注意がいるだろう。

正直自分には興味も関係のないものだが、車の中ではなく外
 付けの収納を付けてしまつたという考え方が面白いと思った。車
 椅子でそのまま乗り、そのうえ運転までできる、という車もあつ
 た。

介護食のフースを見学して

【介護食について】

これまで普通の料理を食べてきた私にとっては、縁遠い物だ(た)と(う)つ(か)は(じ)め(て)食(べ)た(が)、基本的なフース(フ)について(気)持(ち)悪(い)と(う)つ(か)が(妙)に(印)象(に)残(り)た(。

ただ、最初に食べたフースは、大塚製薬の介護食は素直に(お)い(し)と(感)じた(。や(わ)ら(か)い(が)程(よ)く(硬)さ(も)あ(り)、見(た)目(も)ほ(ぼ)一(般)の(も)の(と)変(わ)ら(な)い(。

他のものもいくつか食べたが、どれもペースト状のドロドロ。改めて見た目で結構大事なんだなあと(思)った(。

☆武村さんの卒業おめでとう☆

武村さんがアイエルセンターで共に働き一年がたちました。一緒に仕事をしていてすごいなと感じたのは、パソコンでの作業が(と)て(も)得(意)で(パ)ン(コ)ン(の)操(作)で(困)つ(た)時(が)あ(る)と(教)え(て)ま(ら)い(し)事(業)は、助(け)て(ま)さ(し)ま(した)。

しかし、一年がたち武村さんは、次のステップとして就職という道を選びました。一年共に働いたメンバーがいなくなるのは、少し寂しい気持ちですが本人が人生の大切な選択をして自ら行動をおこす事は、(と)て(も)お(い)わ(せ)し(素)晴(ら)しい(と)思(っ)た(。

武村さんの新たな一歩を心から応援しています。

アイエルセンター 一同

アイエルセンタースタッフ

香川 稔

ユーザー

車椅子が引く(こ)ぎ(が)で(き)る(の)が(お)い(い)と(思)っ(ま)した(。

引く(こ)ぎ(が)出(来)たら(段)差(が)登(り)や(す)い(と)思(っ)ま(す)。

地震や災害時に使える(と)思(っ)ま(す)。

ユーザーがあれ(ば)世(中)が(便)利(に)な(る)と(思)っ(ま)す(。

車椅子(チェア)もお風呂(バス)に(い)ろ(ろ)な(福)祉(し)器(き)具(ぐ)が(あ)つ(て)お(も)こ(な)か(た)で(す)。(技)術(が)進(歩)し(て)い(く)に(は)い(い)と(思)っ(ま)す(。

将来的(に)更(に)進(歩)した(福)祉(し)器(き)具(ぐ)が(出)来(る)事(を)願(っ)ま(す)。(と)て(も)便(利)な(エ)レ(バ)タ(ー)が(あ)ら(う)と(思(っ)ま(す)。

センサーがある(と)お(い)い(と)思(っ)ま(した)。

センサーがあれば(ア)ラ(マ(が)閉(ま)ら(な)い(ので)お(年)寄(り)が(便)利(だ)と(思(っ)ま(す)。

お年寄りが住みやすい世の中にならな(い)と(思(っ)ま(す)。



ホームページより引用

地域活動支援センターに移行して

アイエルセンター チーフ

川原崎 浩史

二〇一三年四月より小規模作業所 障害者情報クラブ（アイエル）センターは、地域活動支援センターに移行することになりました。現在十五名の障害者スタッフが働いています。十名を超えると小規模作業所は、地域活動支援センターに移行しなければいけないようです。

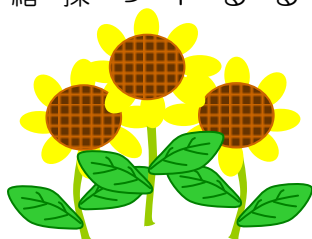
何が変わるのかと聞くと法外施設から、法内施設に変わるそうです。残念ながら何が変わるのか全くわかりません。提出する書類が増え、ややこしくなりました。では補助金が増えるかと言っと全く増えなく、むしろ大きく下がってしまいます。不思議ですねえ（笑）つまり現状としては、ますます厳しい状態に移行したのです。

しかし、こんな事でへこたれる「Lセンターではありません。障害者スタッフは、「負けるもんか」と今まで以上に仕事を頑張ってくれていますし、センター長も気合入りまくりで元気にみんなを引っ張ってくれています。職員も頑張るみんなをしっかりと支えてくれています。

私は、そんなみんなに感謝、感謝の日々です。

そんな「Lセンター」と「ユニース」をお読みの皆さん

是非、力を貸して下さい。ボランティア、バザー用品は随時募集中です。作業収入が上がる方法ありませんか？そして何より、障害者スタッフを募集しています。宝塚市周辺で行く場所がなく家に引きこもっている障害者はいませんか？仕事場を探している人、仲間探しをしている人はいませんか？「Lセンターのモットーは「どんな障害があっても出来る仕事がある。それを一緒に探そう。」です。良かったら明るい仲間と一緒に楽しく働きませんか？



障害者スタッフ募集中

☆ アイエルセンターでは障害者の自立に向け、様々な仕事に取り組んでいます

☆ 「1自身ができる事を活かし、仕事内容を一緒に考えていきます」

☆ 興味がある事、新たに何か挑戦したい事をみつけたら皆さん意欲的に楽しく働いています

見ながわんが軽いなあトホトホ...

「四国歩き遍路旅」

稲津 芙美子

こんには。週一回程度ーLセンターにお手伝いに来ている稲津です。三月(五泊六日)、四月(八泊九日)、五月(七泊八日)に四国八十八ヶ寺を訪ねた旅を紹介したいと思います。

三月十七日、舞子から高速バスで徳島に渡り、単線のJR高徳線で坂東駅に降り立ったのが遍路の始まりでした。まずは一番の霊山寺に初参りのため、寺近くの店で数珠、納経帳、菅笠、白衣、経本、頭陀袋などを購入し、お参りの作法をお寺で教えてもらいました。

歩き遍路は、寺から寺へすべて徒歩で回ります。お寺では線香とろうそくをあげ、お経を唱えます。町中や国道を歩くこともあれば標高七〇〇mとかの山中の旧遍路道を登ったり下ったり、海岸の岩伝いに歩いたりするところもあり、三月は八十四km、四月は一七六km、五月は一六六km(一田平均二〇km位)を歩き通して三十六番の青龍寺まで達しました。

朝七時半頃宿を発ち、夕方五時頃に次の宿に入りますが、毎日二〇kmを歩くのは大変でした。足にまめができるのが痛いですが、縫い針に木綿糸を付けてまめをひと縫いし、糸をまめに通したまま水を抜き、絆創膏を貼っておくと体温で水分が抜けて数

日でまめが治ります。これを一回の旅に数回ずつ経験し、まめの治療がとてつまくなりました。

田園地帯ではトマトや甘夏などが無人の店で売られています。一袋田二〇三田です。休憩時にそれらを食べるのですが、これが飛び切りおいしいのです。また、土地の方がとても親切で、声をかけてくれたり差し入れてくれたりします。立ち寄った郵便局やコンビニでもお茶などをもらってびっくりでした。

秋に三十七番から先をまた歩きます。それまで、体力をつけておこうと思っています。

稲津さんの紹介をさせて頂きます。

稲津さんには、アイエルセンターにボランティアで来ていただいております。普段の様子を見てると、パソコン操作にも慣れていらっしゃるのですね。仕事のサポートもお願いできます。プライベートではスマホも使っているパワフルな方です。

ボランティアも有難いお仕事です。
そしてお疲れ様です。

アイエルセンター一同

池田英樹さんを偲んで

副理事長 坂上 正司

池田英樹さんと出会ったのは二〇〇五年、今から八年前になります。兵庫頸損連絡会が企画した「人工呼吸器使用者の自立生活を実現するために」を準備しているときでした。

彼の生活は自由で生気に満ちあふれていて、すでに自立生活をしている高位頸損者からも輝いて見えました。

彼の生活をとらえたドキュメンタリー映画「生きていく」の上映会もとことこ主催で三月に開催し、盛会でした。その矢先、お父様の訃報、そして二ヶ月後に英樹さんが亡くなりました。

医療ケアが必要な人たち、しかも自分より若年の方が亡くなるのはつらいことです。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

特定非営利活動法人とことこニュース

所在地 〒665-0882

兵庫県宝塚市山本南2-6-5

NPO法人とことこ障害者情報クラブILセンター

【障害者情報クラブへのご寄付、会費の振込みの方】

TEL&FAX 0797-82-2233

E-MAIL sjcil@hotmail.co.jp

郵便口座 14360-43110611

障害者情報クラブ

銀行口座 三井住友銀行 逆瀬川支店普通3566211

障害者情報クラブ

【アイエルセンターへのご寄付の方は】

池田銀行 山本支店 普通 28004

特定非営利活動法人 とことこ 理事長 中山君江